

ちば文化振興計画(仮称)の課題・施策の方向性・主な取組 (案)

基本方向	課題(青字は委員の意見。 はインターネットアンケートの結果等)	施策の方向性	主な取組(青字は、新規事業の案)
1 文化芸術活動を支えるための仕組みづくり	<p>個人が気軽に参加できる文化芸術活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人がいつでもどこでも文化活動に気軽に参加できるような体制づくりが必要である。 文化芸術活動について、「定期的に活動している」9.5%、「ときどき活動している」11.4%、「活動していないが、今後活動したい」41.3%。 文化芸術活動を行う際に感じた不満や不便について、「特に不満や不便はない」31.0%、「時間があまりとれない」26.2%、「参加費(活動費)が高い」26.2%、「展示や発表をする場所がない」21.4%。 「趣味・娯楽の種類別行動」に関する調査で、千葉県の実行者の比率は、読書・映画鑑賞・美術鑑賞などで全国平均を上回り、書道・華道・茶道などで全国平均を下回った。 <p>文化芸術団体の新たな展開が可能となる文化振興策</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化芸術組織は大きな役割を果たしてきたが、多様な組織の生き生きとした展開が可能となる県の文化振興策が求められている。 文化芸術団体はできるだけ多くの人たちと連携と広がりを求めるよう努力しなければならない。行政に何かをやってもらうという姿勢だけでなく主体的な活動を行うとともに、新しい視点で組織作りを考えなければ発展性はない。 千葉県芸術文化団体協議会 55 団体、加入者 132,535 人 <p>文化のネットワークづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化芸術団体や芸術家と行政機関、企業、学校、NPO等が連携し、補完しあうことにより、地域の文化芸術活動が大きく発展する可能性がある。関係機関がネットワークを組み連携を深めるべきである。 官民一体が一堂に会する会議を設置すべきである。 市民団体の協力・支援・ネットワークの充実を図り、自立できる方法や環境づくりの構築に、行政が先導的役割を果たすことが必要である。 「学術・文化・芸術・スポーツ」分野を活動分野とする NPO 法人数は 513 団体。 <p>企業メセナの新たな展開</p> <ul style="list-style-type: none"> NPO との協働や非資金的メセナなど、形態が多様化している。新たな「千葉モデル」を期待する。 千葉県のメセナ活動は 37 プログラム(13 位)、実施企業数は 25 社(12 位) <p>コーディネーター等の人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化をつくる場を作り人々をつなぐコーディネーター等がたくさん生まれ、育つための条件を開くことが大切である。 アートマネージャー、アートプロデューサー等の育成が急務である。 優れた指導者を養成し、地域格差を少なくし、幅広い文化芸術活動の振興支援を図る必要がある。 <p>文化財の保存整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 県外や世界に誇れる「千葉らしさ」として、「史跡や神社仏閣、美術工芸品等の文化財」20.4%(第 3 位) <p>顕彰の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化芸術活動の功労者を顕彰することは、文化芸術の振興を図る上で重要である。県の「文化の日の表彰」の文化功労被表彰者は、平成 21 年度 1 人・1 団体、平成 22 年度 2 人。 	<p>県民の自主的な文化芸術活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ちば文化」を創造し、推進する「主役」は県民であり、県民自らが文化芸術活動を行う機会や情報の提供に取り組む。 <p>文化芸術団体への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 県と県域文化芸術団体との共催による「千葉・県民芸術祭」を開催するとともに、文化芸術活動の情報を提供し、文化芸術団体の自主的な活動を支援する。 <p>文化のネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 県民の自主的な文化芸術活動を支援するため、県、市町村、文化芸術団体、NPO、企業、文化ボランティア等が分担・連携して、「ちば文化」を支える「文化のネットワーク」を構築する。 ネットワークの構築に当たっては、急速に拡大している文化芸術 NPO、文化ボランティアとの連携を強化する。 <p>企業メセナ等による支援の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化芸術活動を支援する企業メセナや文化芸術系 NPO と、文化芸術団体等との連携の強化を促進するとともに、支援情報の提供や普及に取り組む。 <p>「ちば文化のひとづくり」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の文化芸術活動を活性化するため、関係者のつなぎ役となる文化コーディネーターや、企画・運営を行うプロデューサー等のちば文化を支える人材を育成する。 <p>文化財の保存整備の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財の保存整備や調査を進める。 <p>顕彰の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化芸術活動に顕著な功労のある人・団体を顕彰する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化施設における県民参加型の事業の実施 千葉・県民芸術祭の開催による、県民が文化芸術活動に参加できる場の提供 ホームページ(文化交流ボックス)等による情報提供 千葉・県民芸術祭の開催 文化芸術活動に対する後援 ホームページ(文化交流ボックス)等による情報提供 行政・文化芸術団体等による情報交換・意見交換の実施 文化芸術ボランティア活動の情報ネットワークの運営 企業メセナ活動に関する情報提供 メセナ企業と文化芸術団体とのマッチング方策の検討 国の支援制度や民間助成団体の情報の提供 地域の文化芸術活動を支える人材の育成 文化財保存整備事業等、文化財の整備や調査に関する各事業 文化の日の表彰(文化功労表彰)の実施

基本方向	課題(青字は委員の意見。 はインターネットアンケートの結果等)	施策の方向性	主な取組(青字は、新規事業の案)
<p>2 文化に触れ、親しむ環境づくり</p>	<p>文化芸術に触れる機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域により文化を享受できる環境に差が生じないよう配慮が必要である。 「平成 21 年度に公演・展覧会等に行った」と答えた人は 46.3%。 「平成 22 年度に公演・展覧会等に行ってみたいと思う」と答えた人は 81.6%。 <p>文化施設の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化施設を管理する文化振興財団等は、施設管理だけでなく、機能の拡充、人材育成、他の施設との連携を図るべきである。 県内の文化会館の設置数は 54 館(全国 9 位)、利用者数は 458,460 人(全国 7 位) ・これからの博物館には、博物館活動の基盤を強化した上で、市民との交流、参画、連携の学習支援機関としての役割の充実が求められている。 県内の美術館・博物館の設置数は 41 館(全国 7 位)、利用者数は 293 万人(全国 13 位) 県立美術館・博物館の満足度 「満足している」30%、「満足していない」33%、「どちらともいえない」37% 満足していない理由は、「情報が不足」51%、「広報活動などが不足」42%、「展示や催し物が面白くない」40% 「これからの県立美術館・博物館に期待すること」として、「資料収集・調査研究と後世への継承」62%(第 1 位) 「魅力的な展示(展覧)会の開催」61%(第 2 位) 「生涯学習への貢献」43%(第 3 位) 県内の図書館の設置数は 133 館(全国 5 位)、利用者数は 8,294,868 人(全国 7 位) <p>子どもたちが文化芸術に親しむ環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら芸術文化を体験し、感動し、考える青少年を育成すべきである。 千葉県のある学校における鑑賞教室の実施率は 62.6%(全国 31 位) <p>教育現場と地域・文化施設等との連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動を見学生徒の文化芸術活動の自発的参加の場とする。 ・学校と地域、学校と美術館博物館とが連携し、文化振興システムの新しい形態が創意を持って語られる必要がある。 <p>若者の文化芸術活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者文化は異質なものと考えられがちだが、若者こそ現在・未来の文化を支え創り出す中心と位置づけ、文化的人材として育成すべきである。 「千葉らしい個性ある地域文化を創造する上で、より望ましい将来像・理想像」として「青少年が文化芸術に触れ、創造性や感性が育まれている姿」を選んだ人は 37.3%(第 2 位)。 <p>高齢者の文化芸術活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の文化芸術活動の場を設け、そのパワーを、若い人と一体化した活動へと広げていくべきである。 	<p>優れた芸術鑑賞機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 県立文化施設等での公演や展覧会など、県民が優れた芸術に触れる機会を充実するとともに、情報提供を行う。 <p>県立文化施設の機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 県立文化会館・博物館・図書館は、文化振興の拠点として県民の文化活動や学習活動を支援するほか、人材育成や教育普及活動に取り組む。 (文化会館) <ul style="list-style-type: none"> 「ちば文化」創造の拠点となる役割を果たす。 (美術館・博物館) <ul style="list-style-type: none"> 常設展・企画展を充実させるとともに、専門家による指導を受ける機会を設け、技術・知識の向上を図り、後継者を育成する。 (図書館) <ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館と連携機能を図り、県民の文化活動・学習活動を支援する <p>子どもたちの文化芸術活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 次代を担う子どもや若者の豊かな感性を育むため、文化芸術を鑑賞する機会を提供する。また、子どもたちが自ら行う文化芸術活動を支援し、文化芸術を体験する機会を充実する。特に、千葉県少年少女オーケストラの活動を支援する。 <p>学校教育における文化芸術活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育で、児童生徒が文化芸術を体験学習する機会を充実するとともに、芸術家等が学校教育の中で行う文化芸術活動を支援する。特に、文化施設等と連携し、専門家による指導を受ける機会を設ける。 <p>若者の文化芸術活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 若者による、従来の枠を超えた創造的な文化芸術活動を支援し、将来の文化芸術活動の人材を育成する。 <p>高齢者・障害者等の文化芸術活動機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者や障害者が文化芸術に親しみ文化芸術活動を楽しめるよう、文化芸術の鑑賞機会の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設における自主公演や展覧会の充実 ・県民芸術劇場の開催 ・広報誌やホームページによる情報提供 ・県立文化施設の管理運営、整備 (文化会館の機能の充実) <ul style="list-style-type: none"> ・優れた文化芸術の鑑賞機会の提供 ・県民参加型の事業の充実 ・若手芸術家の文化芸術活動を支援 ・芸術文化団体や大学との連携 ・県内の文化振興の指導的役割 ・文化のネットワークづくり (美術館・博物館の機能の充実) <ul style="list-style-type: none"> ・美術館・博物館の専門性を生かした展示・普及事業 ・美術館・博物館における講座・体験事業 (図書館の機能の充実) <ul style="list-style-type: none"> ・市町村図書館等と連携した県民の読書・調査・研究活動の支援 ・家庭や地域における子どもの読書活動の支援 ・児童生徒への文化芸術の鑑賞機会の提供(学校音楽鑑賞教室等) ・児童生徒への文化芸術活動の体験の充実(伝統芸能ふれあい体験事業等) ・千葉県少年少女オーケストラの活動支援 ・文化芸術に関する体験学習等の充実(学校音楽鑑賞教室) ・児童生徒に対する洋楽・邦楽の演奏指導の実施 ・発掘で出土した文化財の管理と学校等と連携した活用 ・若者の創造的な文化芸術活動の支援 ・生涯大学校や福祉ふれあいプラザ等での文化芸術活動の推進 ・文化芸術団体等による、高齢者施設・障害者施設等へのアウトリーチ

基本方向	課題(青字は委員の意見。 はインターネットアンケートの結果等)	施策の方向性	主な取組(青字は、新規事業の案)
3 文化資源を活用した地域の活性化	<p>地域一体となった文化資源の活用と地域の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化資源や人材を整理し、足元の魅力を掘り起こし、県民に魅力を感じてもらう必要がある。 個人所有の建物など行政の権限が及ばない部分の調整が必要である。 <p>「千葉らしい個性ある地域文化を創造する上で、より望ましい将来像・理想像」として「地域独自の文化芸術や歴史がまちづくりに生かされている姿」を選んだ人は49.8%(第1位)。</p> <p>文化的景観の保全・活用</p> <p>県外や世界に誇れる「千葉らしさ」として、「町並みや景観」19.4%(第4位)</p>	<p>文化資源の活用と地域の活性化</p> <p>市町村・観光協会・企業等と連携し、伝統文化や文化遺産を文化資源として再発見し、観光やまちづくりに活用する。</p> <p>文化的景観の保全・活用</p> <p>平成20年に選定した60の「ちば文化的景観」を保全するとともに、観光振興に活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文化資源の観光・まちづくりへの活用の先進事例を紹介するシンポジウムの開催 文化資源情報の提供 海・山・川の現場(フィールド)で展開する博物館活動 「ちば遺産100選」、「ちば文化的景観」等の活用
4 伝統文化の保存・継承	<p>伝統文化の保存・継承</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開の促進と保存・継承の支援が必要である。 保存・継承に向けたネットワーク作りが必要である。 伝承母体の連合体同士の情報交換・意見交換(行政や学校も巻き込んで)が必要である。 <p>県外や世界に誇れる「千葉らしさ」として、「地域の伝統芸能や祭り、食文化など」33.8%(第2位)、「史跡や神社仏閣、美術工芸品等の文化財」20.4%(第3位)</p> <p>伝統文化に触れる機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝統文化の公開や発表等を支援すべきである。 <p>青少年に対する伝統文化の継承</p> <ul style="list-style-type: none"> クラブ活動を児童生徒の文化芸術活動の自発的参加の場とする。 	<p>伝統文化の保存と担い手の育成</p> <p>千葉の貴重な財産である伝統文化の保存と、継承のための担い手の育成に取り組む。</p> <p>伝統文化に触れる機会の提供</p> <p>県民の伝統文化への関心を促すため、伝統文化に触れる取組を推進する。</p> <p>青少年への伝統文化の継承</p> <p>子どもたちが伝統文化を継承する契機となるよう、日本舞踊や和楽器演奏、茶道、華道等を体験する機会を設ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 民俗芸能の普及・担い手育成のための公開事業の実施 (伝統文化に県民が触れる機会の提供) 房総の郷土芸能 千葉の食文化まるごと体験事業 千葉県伝統的工芸品の指定、後継者養成、伝統的工芸品展の開催等 児童生徒に対する邦楽の演奏指導 児童生徒を対象とした伝統芸能体験事業への支援 邦楽や茶道など伝統文化の指導者による授業、部活動等の支援
5 「ちば文化」の魅力発信	<p>魅力の発掘ときめ細かな情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉県は文化の発信力が弱い。県の文化政策を飛躍的に力が入ったものとして大きく展開することが求められる。 どのように情報発信するか、長期的視野に立った展望を持つこと 県民が芸術家、文化人の活動を知ることができるよう情報発信を効果的に行うこと。 <p>県民の千葉県に対する愛着や誇りのかん養</p> <p>県外や世界に誇れる「千葉らしさ」として、「自然環境」が75.6%(第1位)、「地域の伝統芸能や祭り、食文化など」33.8%(第2位)、「史跡や神社仏閣、美術工芸品等の文化財」20.4%(第3位)、「町並みや景観」19.4%(第4位)</p>	<p>ちば文化の魅力の発掘と情報の収集、提供</p> <p>市町村や文化芸術団体、文化施設等とのネットワークを活用し、幅広い情報を収集・提供して、ちば文化の魅力を県内外に発信する。</p> <p>県民の日を通しての、ちば文化の魅力発信</p> <p>6月15日の「県民の日」にちなんだ事業を通じて、ちば文化の魅力を県民に知ってもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> HP、マスコミ等を活用した情報発信 県ホームページの充実 「ちば文化交流ボックス」 「ふさの国文化財ナビゲーションシステム」 「博物館情報システム」等 公演、展覧会、講演会、フォーラム等を通じたちば文化の発信 県民の日の事業の開催

推進体制

課題 (青字は委員の意見。 はインターネットアンケートの結果)	各機関の役割等	備考
<p>行政</p> <p>・行政は、市民の発意を尊重し誰もが文化活動に参加できる環境を整えるべき。地域を支えるのは市町村であり、県はそれを支援すべきである。</p> <p>「千葉県の文化芸術を振興するために県が果たすべき役割」の回答</p> <p>「青少年が文化芸術に親しむ機会の充実」50.2% (第1位)</p> <p>「文化財や伝統芸能などの保存・継承への支援」46.3% (第2位)</p> <p>「優れた音楽会や展覧会などの鑑賞機会の充実」45.3% (第3位)</p> <p>「文化芸術に関する情報の提供」42.8% (第4位)</p> <p>文化施設の管理者</p> <p>・文化施設を管理する文化振興財団等は、施設管理だけでなく、機能の拡充、人材育成、他の施設との連携を行う。</p> <p>文化芸術団体</p> <p>・文化芸術団体は、団体の維持を図るだけでなく、多くの人と連携し新たな視点で組織作りを行う。</p> <p>企業</p> <p>・企業は、社会貢献活動の一環として文化振興に取り組む。</p>	<p>県</p> <p>広域自治体として、文化芸術振興基本法及び国の基本方針に基づき、また、市町村の意向を踏まえ、文化芸術活動の推進に必要な支援を行い、県域の均衡ある文化芸術の振興を図る。</p> <p>また、国や関係機関が行う助成事業等に関する情報提供を行い、地域での文化芸術活動を推進する。</p> <p>市町村</p> <p>住民に身近な基礎的な自治体として、地域における文化芸術活動の支援などを推進していく。</p> <p>学校</p> <p>子どもたちが学ぶ場であるとともに、人間性や感性をはぐくむ場でもある。</p> <p>大学は、教育・研究機関として、多くの人材や研究成果、施設を有しており、地域の文化芸術振興の担い手として、文化芸術活動への助言・提案や情報提供を行うなどの役割が期待される。</p> <p>文化施設の管理者</p> <p>文化施設を管理する団体(文化振興財団等)は、単にハードの管理だけでなく、優れた文化芸術の提供や関係機関のネットワーク構築、人材育成等の拠点としての役割を担う。</p> <p>文化芸術団体</p> <p>自発的な文化芸術活動の主体として、地域の文化芸術振興の担い手となることが期待される。</p> <p>芸術家</p> <p>文化芸術の担い手であり、人々に感動や生きる喜びをもたらすことが期待される。</p> <p>企業</p> <p>社会的責任から文化芸術活動への支援を通して、文化芸術振興を担っていくことが期待される。</p>	

計画の評価

課題 (青字は委員の意見)	評価の実施について	備考
<p>計画の評価を行うこと</p>	<p>計画の中間年に進捗状況等についての評価を行う。 (毎年の評価については、政策評価制度を活用する)</p>	